



王桜中だより

第4号 令和6年7月

北区立王子桜中学校
校長 吉原 健

「頼る」ことは「つながる」こと

校長 吉原 健

今の時代は、いじめや自殺など子どもをめぐる状況が大きな社会問題になっています。

本校でも、生徒が深刻な悩みや強い不安を抱えているときに、身近にいる信頼できる大人にSOSを出すことができるようにすること、身近にいる大人がそれを受け止め、支援ができるようにすることを目的とした「SOSの出し方に関する教育」を毎年行っています。生徒たちへの一方的な指導に終わることなく、教師として生徒のSOSを丁寧に受け取り、適切な支援につなげるためのスキルを学び、力量を高めるための研修も継続して行っています。

一方で、今は「困っているのに誰も頼れない」「なかなか助けてと言えない」子どもが増えているとも言われています。子どもたちが一人で辛い気持ちを抱え込むのではなく安心して辛い気持ちを吐き出してもらうための大人の関わりが問われています。



作家で医師の吉田穂波さんが最近の著書でこんなことを書かれていました。

それは『一人でできることと、一人ではできないこと』の見極めをつけるーこれが大人になってからの本当の自立です』という言葉です。ともすると、日本人には「頼ることへの苦手意識」があるように感じます。それは人に迷惑をかけることを恥だと感じやすい文化であったり、自己責任を問う現在の社会的な風潮であったりすることが背景にあるのかもしれませんが。

しかし、吉田さんがいうように、「頼る」ことは相手と「つながる」ことであり、相手とつながることで人間関係が広がり深まっていきます。誰かを頼るということは、お互いを高め合い、尊重し合う行為なのだと思います。

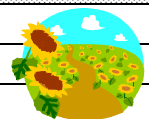
かつて私自身の経験の中でも、担任しているクラスにいる生徒との関わりがうまく築けずに一人で悩んでいたときに、自分の弱みを認め、クラスの生徒たちに率直に自分の悩みを相談することで、その子との関係を少しずつ改善することができたという経験があります。このときは「担任として私が何とかしなければ…」という思いを勇気を出して捨ててみたのです。

子どものSOSに応えられるようにするには、まず親や教師など子どもの身近にいる大人自身が助けを求められるかどうか、子どもにとってのロールモデルになれるかどうかが大変になると考えます。私たちは一人一人が異なる強みと弱みをもっており、むしろその多様性があるからこそ「しなやかな集団」をつくることもできると思っています。そんな開かれた心を生徒たちがもてるような学校づくりを行っていきたいと思っています。

参考図書:「頼るスキル頼られるスキル(吉田穂波)」角川新書

今月の行事予定

日	曜日	7月行事予定	日	曜日	7月行事予定
1	月	全校朝礼・安全指導	13	土	土曜授業 道徳授業地区公開講座
3	水	2年職場体験学習始 校内研修会			1年岩井臨海学園保護者会 8時40分
4	木	給食試食会 11時30分～13時	15	月	海の日
5	金	職場体験終 2年EC那須保護者説明会	16	火	3年租税教室
8	月	生徒会朝礼	17	水	避難訓練
10	水	職員会議 部活動再登校 16時～	18	木	中央委員会
11	木	専門委員会(昼学活・昼清掃)	19	金	全校集会 清掃活動 職員打合せ 部活なし
12	金	SOS(命を守るための教育)講習会	22	月	夏季休業日始 三者面談始



ユニバーサルデザインの学校づくり



王子桜中では、今年度から〈ユニバーサルデザイン〉の視点を生かした授業づくりや環境づくりを学校全体で行っています。

例えば教室後方に大きなサイズの「ユニバーサルデザインカレンダー」を掲示しているクラスがあります。これは、すべての生徒たちが見通しをもって学習や生活ができるように、各教科の学習の予定や持ち物、提出物などを大きく見やすい文字で提示しているものです。教科によってカラーペンの色を変えている工夫をしているクラスもあります。どの生徒でもこのカレンダーを繰り返し見る習慣ができれば、忘れ物を今よりもっと減らせるかもしれません…。

授業の中でも、今日の「授業の流れ」を箇条書きで板書したり、「作業や活動の進め方」の手順やポイントを視覚化して明示するなど、各教科の特性を生かしたユニバーサルデザインの授業の工夫をしています。「タイマー」で個人作業やグループ学習の時間の目安を示すことにより、見通しをもって学習に取り組む安心感につながっています。教室前方の掲示物は少なくし、授業への集中を妨げる刺激を減らす工夫をしているクラスもあります。6月12日に王子小で行われた王子桜中サブファミリーの研究授業でも、4つの分科会でユニバーサルデザインの視点を生かした授業が工夫して行われ、幼小中の先生たちで校種を超えた話し合いを深めることができました。



その高校で何ができるのか？



6月19日に本校の巡回拠点王子桜が企画した「保護者研修会(進路懇談会)」が王子ホールで行われました。これは様々な支援の形を用意している上級学校から、生徒や保護者の方にとって身近な進路選択になる高校の先生を講師としてお招きし、学校紹介やグループ懇談を行ったものです。講師としては、「チャレンジスクール」と「エンカレッジスクール」の都立高校の先生、「広域通信制高校」の先生においでいただきました。

3人の先生方のお話を伺って感じたのは、どの高校も教育理念やコンセプトがとても明確であったことです。そして地域や学校によってそれぞれ特色が大きく違うということです。そのため、必ず生徒と保護者が、実際にその高校に足を運んで“空気感”を肌で感じて欲しいということでした。ある都立高校の校長先生は、「学校選びのポイント」として、

- 授業公開や学校行事を参観し、生徒の様子をよく見ること
- 先生たちの生徒たちへの対応や指導の様子をよく見ること
- 施設や設備の状況をよく見ること
- 通学時間や学校のある場所を自分の目でよく確認すること
- ◎その高校で何ができるのかをよく見極めること…をあげていました。



特に「その高校は生徒にどんな力を身に付けてくれるのか？」を見定めることを強調されていました。そして〈必ず最後は子どもに自分で進路選択の判断させて欲しい…自分で選んだ学校ならば必ず最後まで頑張れるはず…〉というお話がとても心に残りました！

お知らせ



○7月3日(水)～5日(金)の3日間、2年生の「職場体験学習」が行われます。区内48の事業所に受け入れをお願いしました。職場体験を通じて、働くことの意義を考え将来の職業選択や自分の生き方を考えるとともに、地域の方との交流を通して社会性を育むことを目的としています。